

源頼義家

〔旧跡油小路左女牛（今の花屋町なり）の南にあり、初は耳塚町といふ。〔今仏具屋町と改む〕伊予守

頼義は詔をうけて、永承五年より奥州に下り、前九年後三年の合戦に宗任を誅し貞任を生捕て上洛し。忽発心して仏門に入、永保二年に往生し給ふよし、往生伝に見へたり〕

長明発心集云 伊予守源頼義は若きより罪をのみ作りて聊も懺愧の心なかりけり。況陸奥に向ひて十二年の間、謀反

の輩を滅し喪へる命数をしらず、因果のことはり空しからずば、地獄の報疑ひなからんと見へけるに、みのわの入道とて先立て世をそむける者有けり。折ふしに此世の無常の身罪の報のおそるべきやうなると云けるを聞て、忽発心して一筋に往生極楽を願ひ給ひけり。かの箕輪入道が造ける堂は伊予入道の家の向ひ佐女牛西洞院なり。箕輪堂とて近くまでありき。〔東斎隨筆云、六条坊門の北、西洞院の西に堂あり、みのわ堂と号す。是は伊予入道頼義、奥州の浮囚を平て後建立せり。十二年の間戦場に討れたる者の片耳を■集て、件の堂の下に埋るより、耳納堂といふ。みのわ堂といふは僻事にや云云〕

下間家

〔本願寺坊官にして東西六条に其家多し。遠祖は摂津守源頼光五代の苗三河守頼綱の孫兵庫頭仲正が子源三

位頼政なり。此人は馬場兵庫頭と号す、馬場、山県、下間、乙部、大河内等の祖なり。頼政の子を伊豆守仲綱といふ、

其子肥後守宗重なり。頼政の孫右馬助頼茂が北条に対し逆心あるによつて、一族の宗重も召捕れ、三条河原に於て既に

刑せられんとする時、親鸞しんらん聖人此所を通り給ひ、宗重が命を強に乞うけて僧となし、東国経回の時も隨身させしめ給ふ、蓮如上人の代に至つて後は、此子孫の家繁榮して北国を伐随へ、加能の二州に勇威を震ひ、又年累りて大坂石山御堂の時、信長と此苗孫数度の戦ひに英名を揚し事、くはしきは信長記拾遺に見へたり」

### 桂宮かつらのみや

〔旧跡は七条坊門（今御前通といふ）西洞院なり。むかし此宮の門前に何とも名のしれぬ大木のありしが、ある時異国の医師来り、此樹を見て日本にも桂樹ありけるよといふ、即枝を打せらるゝに比類なき肉桂なり。人々驚き日本にも桂樹発生する事を初て知り、それよりは此宮を桂宮とぞなづけ給ふ〕

### 古田ふるた織部おりべのきやうざ京座ぎやうざ舗しき

〔西洞院北小路藪内の茶亭なり、織部命終の剋此家に譲り給ふ、茶亭の軒に燕庵といふ額あり、珠光庵しゆくわうの筆なり。雪のあしたといふ石灯炉は東山殿の持物とかや、あるひは利休の寄とら戸下といふ庭石、三つ小袖といふ名の石は鼻祖劍仲千利休せんりのききうに小袖三つと代られけるとかや、其外八坂法観寺の礎、文覚石等は庭中の手洗鉢とす、熱田金灯籠の名器、さまざま庭中に見へたり〕

あまのはしだて  
天橋立

〔旧跡は今の東本願寺御堂の地より北にして、六条魚棚までなり。此地むかし祭近三位資近卿の殿舎にて、庭中に大きな池を掘らせ、天橋立の風景をうつし給ふ。後世まで此池遺りありしを、本願寺建立の時多く埋めらる。今東本願寺の書院を寢殿といひ、小書院を小寢殿といふは、彼三位資近卿の時の殿舎の名なり。此事は清輔きよすけの袋草子に見へたり〕

ほんぐうのもり  
本宮森

〔東九条村宇賀辻子の田間にあり、世の人判官塚といふ〕新宮森しんぐうのもり〔本宮森北二町許にあり。此所九条殿の殿閣ありし時、熊野本宮新宮を勧請し給ふ社地なり、世人判官塚といふはあやまりなり〕施薬院森やくみのもり〔東五条村烏丸の北にあり、いにしへの施薬院の旧地なり。森の中に稲荷の祠あり〕

あぶつのつか  
阿仏墳

〔六孫王大通寺の外乾の方、森の中にあり〕

かまくらのうだいじんざねとものつか  
鎌倉右大臣実朝塚

〔上と同所にあり、由緒は前編に見へたり〕

とうじのしんぐ  
東寺神供

〔毎年四月初卯日稲荷例祭に、五社の神輿を東寺金堂の前にすへて、寺を出て法施し神供あまた備ふ、これ東寺古来より例なりとぞ〕